フロン機の大部分を自然冷媒で製作可能に

株式会社原製作所

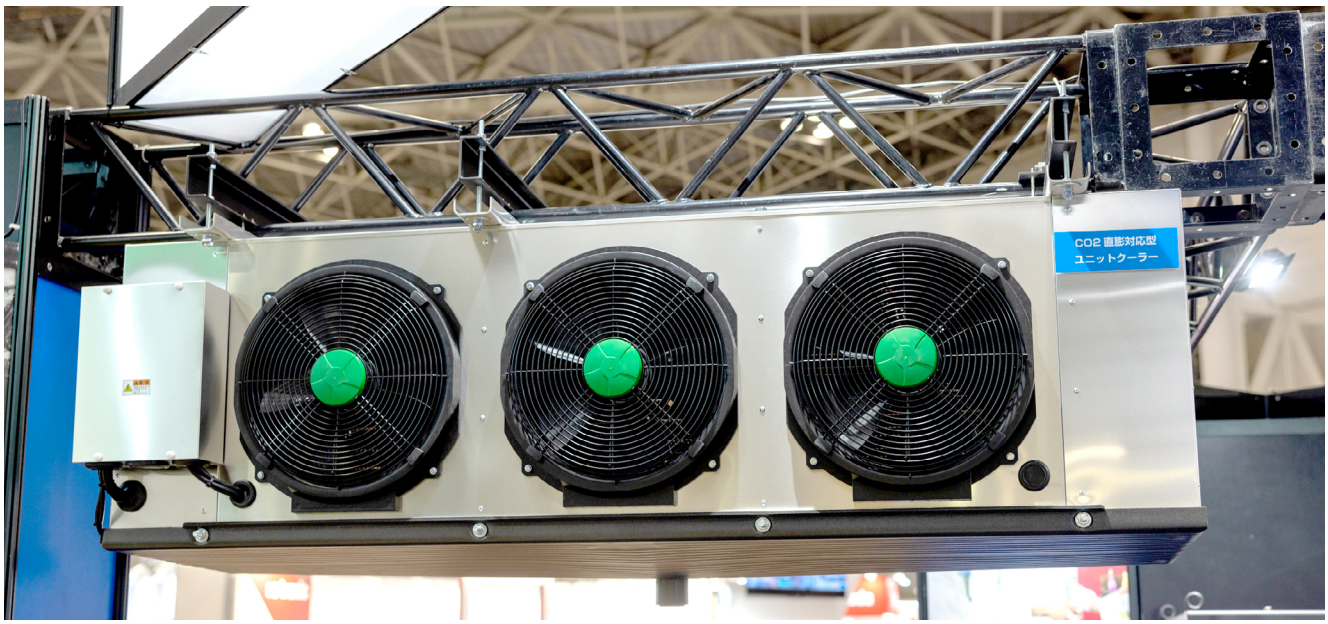
昭和 22 年に創業以来、熱交換器･ユニットクーラーの専門メーカーとして活躍している株式会社原製作所。同社はエンドユーザーの要望に応じフロン用のユニットクーラーに加え、CO_2 対応のユニットクーラーを開発･販売してきた。「HVAC&R JAPAN 2022」では CO_2 冷媒に特化させた部品を用いた直膨ユニットクーラーを展示し注目を集めたが、この 1 年の開発動向はどうだったのか。代表取締役社長の原 正憲氏に聞いた。

文 : 佐藤 智朗

フロン機の大部分を CO_2 でも開発可能に

原製作所は茨城県稲敷市の本社にて、2017 年に CO_2 ユニットクーラーの試験室を作った後、2018 年 3 月より日々の稼働データを採集・検証しながら CO_2 機器の開発を進めてきた。あれから約 5 年、原氏によれば「フロンで製作できる製品は、超大型機種以外ほぼ製作できるようになった」という。CO_2 ユニットクーラーの販売状況については、前期（2021 年 9 月 ~2022 年 8 月）の販売台数は、前々期対比で約 15% アップの結果になったという。

「新型コロナウイルス感染症の影響で PR 活動等はやや停滞してしまいましたが、2023 年からはコロナ前と同等かそれ以上に客先訪問・展示会出展での PR を行いたいと思います。現在、取引のあるエンドユーザー様は大半が大手企業という印象ですが、今後は展示会などを通じて、中小企業のエンドユーザー様にも弊社の製品を PR していきたいところです」（原氏）

現在は 2024 年 1 月 30 日～ 2 月 2 日に東京ビッグサイトにて開催される「HVAC&R JAPAN 2024」（主催 : 一般社団法人 日本冷凍空調工業会）にて、新機種を展示できるよう検討・調整中だ。原製作所は、昨年 2 月 1 ～ 4 日に東京・ビッグサイトにて開催された「HVAC&R JAPAN 2022」にて、CO_2 直膨のユニットクーラーと床置型ユニットクーラーを展示。特に床置型ユニットクーラーは、大型の冷蔵冷凍倉庫で高い需要があり、冷凍能力も 26kW~160kW と幅広いことで来場者の注目を集めた。■ TS

株式会社原製作所の CO_2 直膨ユニットクーラー